



学校教育目標 「ひと」とともに生きる生徒の育成



植竹の息吹き

令和八年
水雲月
第3号

「自律」「敬愛」「進取」の気概溢れる我らが学び舎
チーム植竹の創造

さいたま市立植竹中学校
さいたま市北区土呂町352
〒331-0804
TEL 048-663-2115
FAX 048-665-6377



磨く(みがく)

校長 玉崎 芳行

九州地方の梅雨入りが近いようだ。幼少のころ、“うめの雨”と聞き、外に出て天に向かってあぐり口を開け、落ちてくる雨粒が酸っぱいのかを確かめた。親には、一笑に付された。

元来、日本人は、繊細な感性を持っているのではないだろうか。例えば、菜種梅雨、五月雨、御山洗、小夜時雨など四季折々の雨を表す。他にも、小糠雨、篠突く雨などは、その降る様態を表す。また、空の色を東雲色、紺碧色、茜色などと表す。その表現の豊かさは、どこからくるのか。先人が自然との共存を図り、農耕文化を醸成する中で培われてきたものであろうか。自分を取り巻く周りとのかかわりを大切にしてきた面がうかがえる。

自らの目で見、耳で聴き、肌で触れ、心で感じる。瑞々しい感性は、五感を研ぎ澄ます。

教室では、一年生が笑顔でコミュニケーション活動に取り組んでいる。校庭では、二年生が光る玉のような汗を輝かせボールを追っている。音楽室からは、澄んだ美しい歌声が響いてくる。三年生であろう。チーム植竹の同志は、今日もそれぞれが、それぞれの彩を重ね、自分創りに一生懸命だ。

面をあげよう。心のアンテナを伸ばそう。感性を磨こう。同じ景色が違って見える瞬間が来るかもしれない。隣の友達の優しさや温かさ、辛さや苦しさが見えてくるかもしれない。自らの感性を磨こう。

多くの種目で学校総合体育大会が始まる。過日の壮行会は、圧巻だった。各運動部部長の決意表明には、今日まで積み重ねてきた自分たちの努力への誇りやお世話になった保護者や仲間への謝意などが込められていた。実に凛々しかった。そして、部長代表としてのサッカー部長、剣道部長二人の清廉で赤心溢れる選手宣誓を、私は真正面で受けた。正直に言う。心が震え、込み上げる熱いものを抑えるのに必死だった。

あなたと、あなたの仲間が今まで流した汗と涙で磨き抜いたそれぞれの想いと絆から、チーム植竹の同志は何を感じ得るのであろう。六月十三日には、体育祭も予定されている。みなさんの底力と総力は、無限の可能性を秘めている。あなたの新たな輝きを期待する思いは、高まるばかりだ。さあ、磨こう！